

授業科目名 <英訳>	東洋社会思想史Ⅰ The History of Eastern Thought I			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 特定助教 目黒 杏子		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2017・前期	曜時限	水1	配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>テーマ：中国古代における儒学の歴史</p> <p>本講義では、中国先秦時代より唐代にいたる間の儒学の歴史を概説し、東アジア地域の学術に多大な影響を与えた中国の儒学に対する理解を深めていく。</p> <p>儒学とは基本的に、「五経」などの古典文献の研究を基礎とし、そこから得られた知識や理念を政治において実践しようとするものである。紀元前6世紀頃に孔子によって形成された儒学は、古典にみえる倫理や身分秩序（「礼」）を重視する特徴を持ち、やがて漢代に皇帝を戴く政治体制と強く結びついて以降、中国社会における枢要な学術として、20世紀初頭の清朝崩壊に至るまで持続的に発展していった。</p> <p>そうした儒学の歴史の中で、とくに大きな山場である先秦～秦漢時代の儒学の形成過程に重点を置いて、思想の内容と政治、社会との関わりを解説し、また次の魏晋時代における仏教や道教との交渉による儒学の変化と再建にも言及する。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
儒学とその歴史に関する基礎知識を習得し、中国における学術、学問の伝統的なあり方に関する理解を深めるとともに、東アジア漢字文化圏における学問の特徴について考える基礎を築く。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<p>第1回は、講義の主旨の説明や参考文献の紹介などのガイダンスにあてる。第2回以降、以下のテーマについて複数回にわけて解説する。</p> <p>先秦期の儒学</p> <p>… 春秋戦国時代から統一秦帝国の出現までの間の儒学の内容と儒学者の社会的位置づけについて、他の諸子百家の思想やそれを育んだ社会背景とともに解説する。</p> <p>儒学の「礼」</p> <p>… 儒学をかたちづくる根幹的な概念である「礼」について、中国古代社会に固有の状況から生まれた文化として、その概要を解説する。</p> <p>漢王朝と儒学</p> <p>… 前・後漢約400年間を通じて、儒学が他の多様な思想・学術を抑え、皇帝政治を支える中核的な地位を築いていく過程を、当時の教育のあり方などとともに解説する。</p> <p>転換期の儒学と「士大夫」</p> <p>… 中国が南北に政治的に分裂した魏晋南北朝の時代において、仏教や道教などによって儒学が相対化されていく状況や、そうした学術全体の新傾向、及びそれをになった「士大夫」層について解説する。</p> <p>第15回は期末試験を行い、学習到達度を評価する。</p> <p>第16回のフィードバック方法は、講義において別途伝える。</p>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
----- 東洋社会思想史Ⅰ(2)へ続く -----							

## 東洋社会思想史 I (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（出席状況）と定期試験によって評価する。両者の比率はおおむね50%ずつとする。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

授業中に参考資料を適宜配布する。

### [授業外学習（予習・復習）等]

講義の後、基礎的な用語の意味や内容、他の用語との繋がりなどを確認することを通じて、各自の知識として定着させることが望ましい。

### [その他（オフィスアワー等）]

とくにありません。講義後に質問を受け付けますので、わからなかった点などあればなんでも質問してください。